（第３種郵便物承認）

地球のもとへ 地球とともに
地球にやさしい 飲料フィルター
OHKI
大紀商事株式会社

発行所
CHALLENGE 70
日報ビジネス 株式会社
Vision Vitality Victory
〈東京〉〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5
電話03(3262)3463 FAX03(5276)4431
〈大阪〉〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11
電話06(6262)2402 FAX06(6265)7127

6月17日 №3128
2024年（令和6年）
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
昭和41年9月22日 第3種郵便物承認
購読料（定価） 年間 23,900円＋税
1部本体 509円＋税

包装タイムス
THE HOSO TIMES

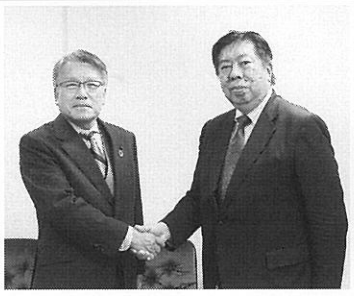
クルツとまとめる ストレッチミニ梱包機
tsukasa あらいを、つつむ、まもる。
クルリンくん
▲動画はこちらから
司化成工業株式会社 TSUKASA CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

業界一丸で環境対応を推進

日本カトラリー・ストロー協会が発足

品質基準定め認定マーク制度導入へ

プラスチック製カトラリー・ストローの国内メーカー9社による「日本カトラリー・ストロー協会」（以下協会）が5月15日に発足した。バイオマス原料の使用拡大など業界一丸で環境対応を推進するとともに、その取り組みを社会にアピールする。また品質基準を策定し、適合する製品にマークの使用を認める認定制度の導入を目指す。品質の担保により粗悪品を市場から排除し、ユーザーが安心して使用できる環境づくりに取り組むことで安全性と利便性が高いカトラリー・ストローの普及を図る。


稲葉会長理事㊧と森岡副会長理事

2022年施行のプラスチック資源循環促進法でスプーン、フォーク、ナイフ、マドラー、ストローを含む12品目が特定プラスチック使用製品に指定され、提供方法の見直しなどが義務付けられた。これを境にプラスチック製のカトラリーとストローは有料化や使用抑制の動きが拡大。業界では従前から石油由来プラスチック原料の使用量削減などに努めてきたが、企業個々の活動にとどまっていたことから、各社が連携・協調しながら環境対応に取り組むことを目的に協会を立ち上げた。

設立時の加盟企業は9社。初年度の会長理事には日本ストローの稲葉敬次社長、副会長理事にはホウケン産業の森岡昇社長が就いた。

協会は「人と地球に優しいカトラリーとストロー」の普及を標榜。カトラリーは子供や高齢者、障がいを持つ人たちが飲食する際に助けとなるユニバーサルデザインの用具であることを強く訴求する。環境に対しては、石油由来の原料を減らし、植物由来のバイオマスプラスチックや生分解性プラスチックの使用を拡大することでCO_2排出量の削減、地球温暖化防止への貢献を図る。

また協会では独自の品質基準を策定し、それを満たす製品のパッケージなどにマークの使用を許可する認定制度を導入する。消費者が安心して製品を購入するための品質保証のシンボルとなるもので、信頼性の高い品質基準と制度運用を目指す。マークはバイオマスマークなどと並列での表示を想定する。すでにカトラリー、ストローそれぞれの部会で品質基準の擦り合わせ作業に入っており、8月をめどに基準案をまとめ、秋口に正式発効する予定。合わせて認定マークを発表する。今後は経済産業省、環境省、農林水産省などの関係省庁やプラスチック関連団体、食品飲料容器関連団体との連携強化を図る。また未加盟の国内カトラリー・ストローメーカーやユーザー企業にもj-csa.jp）を通じて消費者やユーザー業界に情報発信を行う。さらに今後は食品メーカーや飲料メーカーの協力を得ながらカトラリー・ストローの有用性や安全性を広くアピールしていく。連携を呼び掛け、協会活動のネットワークを広げていく構えだ。

まずは協会のホームページ（https://）

協会員企業（9社、50音順）

アサヒ徳島（徳島県吉野川市）
大黒工業（愛媛県四国中央市）
多田プラスチック工業（大阪府藤井寺市）
中備化工（岡山県浅口市）
日本ストロー（東京都品川区）
羽柴化成工業（愛知県愛西市）
フジストロー（広島県福山市）
逸見商店（岡山県浅口市）
ホウケン産業（東京都板橋区）

大空で「紙コップto紙コップ」

JAL／日本製紙／東罐興業

機内分別回収の精度向上や技術進歩で実現

使用済み飲料用紙コップから再生㊧、6月に羽田発JAL国内線運航便で提供㊨

日本航空（＝JAL、東京都品川区）と日本製紙（東京都千代田区）、東罐興業（東京都品川区）は、機内で分別回収した使用済み飲料用紙コップを新たな紙コップに再生する「紙コップto紙コップ」の水平リサイクルを実現した。使用済みの紙コップを回収して再資源化し、新たな紙コップに再生させる資源循環は国内初の取り組み。この取り組みで新たに再生された紙コップは、環境省の2023年度「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞した。

JALグループでは、日本製紙グループと共同で、2022年12月から機内サービスで使用した紙コップの分別回収とリサイクルを実施してきた。紙コップの回収対象路線は、東京（羽田）＝沖縄（那覇）線からスタートし、現在は東京（羽田）＝札幌（新千歳）・旭川・福岡・長崎・熊本・鹿児島・沖縄（那覇）線に拡大している（エアバスA350-900型機・ボーイング767-300ER型機運航便が対象）。

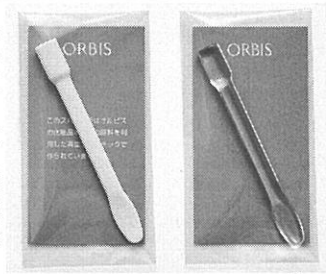
回収された紙コップはこれまで段ボールなどの紙製品に再生されていたが、乗客にも協力してもらい、JAL機内での紙コップ分別回収の精度が向上したこと、日本製紙の富士工場で食品・飲料用紙容器専用リサイクル設備の新設ができたこと、東罐興業の製造技術が進歩したことなどから紙コップ水平リサイクルスキームが確立し、今回の「紙コップto紙コップ」の水平リサイクルが実現した。

当該紙コップの提供期間は6月1日から10日間程度で、在庫がなくなり次第終了している。対象路線：東京（羽田発）JAL国内線運航便。紙コップの使用は、古紙パルプ配合率25%（古紙パルプの一部に機内で使用された紙コップを含む）。再生紙特有の黒点が紙に混ざる場合があるが、品質には問題ないという。

再生紙コップの提供は期間限定での取り組みだったが、JALでは今後も紙コップ分別回収対象路線や再生紙コップの提供路線の拡大検討など、継続的な取り組みを推進する考えだ。

オルビス スキンケア容器をスパチュラへ

体験特化型施設にて回収


「スパチュラ」右から従来（透明）、再生プラ採用（白）

オルビス（東京都品川区）は、省資源・資源循環に向けた活動の一環として、顧客から回収した使用済みスキンケア容器やボトルの製造過程で出るプラスチックの端材、試作品容器などを「スパチュラ（ヘラ）」に再生し、顧客に還元できるリサイクルプログラムの取り組みを行っている。再生プラスチックのスパチュラは2024年5月下旬から順次配布している。同社では、23年1月から体験特化型施設「SKINCARE LOUNGE BY ORBIS」で本取り組みの回収を実施し、約1万8千本のスパチュラを生産した。

同社は、1987年の創業当時から「地球に生かされている私たち」という考えのもと、限りある資源と環境への配慮から、化粧品業界でもいち早く、つめかえ用商品の販売や簡易包装を導入してきた。

特に同社スキンケアブランドの基軸でもある「オルビスユー」は、iFデザインアワードやIDEAを受賞するなど、パッケージデザインにおいても国内外から高い評価を受けている。

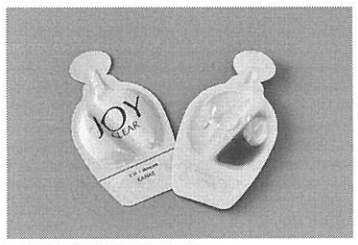
昨今の環境問題に対し改めて検討した結果「商品のリニューアル時に、容器を捨ててしまうのがもったいない」という顧客の小さな声に着目。どのようにリサイクルできるか模索し、同社のスキンケアシリーズにおいてクリームなどのジャー容器商品に使用する「スパチュラ」にリサイクルすることで、環境配慮と共に消費者への還元も目指した、リサイクルプログラムの開始に至った。

スパチュラの製造に伴う原料のペレット化やスパチュラへの再生加工は、同社と取引のある吉田コスメワークス（東京都墨田区）と協業。容器やボトルの回収は、表参道にある同社商品やワークショップを体験することができる施設「SKINCARE LOUNGE BY ORBIS」で実施している。

使用直前に混合できる包装

カナエ〈後編〉

8年の研究を経た集大成


JOY CLEAR

カナエ（大阪市中央区、☎06・6945・1225）が開発し、クラシエ（東京都港区）のヘアケア用品に採用された2液混合機能を持つパッケージ「JOY CLEAR」でワールドスター賞など名だたる賞を立て続けに獲得した同パッケージは、長年の技術研さんと、これまでにない技術の実現によって生み出された。

近年、コロナ禍の影響で美容院に行く代わりにで自宅でヘアケアをする消費者が増加。髪にダメージのあるブリーチやカラーリングが一般的になったこともあり、中・高価格帯のヘアケア商品の需要が拡大している。

そんな中、ヘアマスクにオイルを混ぜることで効果を高めるという手法に着目したクラシエが、2液混合包装の研究を進めていたカナエに最適な包装の開発を打診。一つの包装内に2液を分けて充填し、使用の直前に包装内で混合できるヘアケア用品の開発がスタートした。

製品開発では、試行錯誤を繰り返し製品の理想的な形状や使用感などを突き詰めていった。内容物の充填に関しては、底側から二つのポケットに同時に充填する方式を採用。生産ラインの一定の動きの中で、異なる物性・異なる量の液体を同時に充填することが難しく、調整を重ね成し遂げた。条件に適合するフィルムの選定も時間をかけて行った。

表彰式に立つ包装技術開発部の神野氏

同社は以前にも2液混合包装を開発していたが、新包装はポケット間の導通部分のシール方法において一線を画する物となっている。特殊なシーラントで弱・強シールを共存させる技術により、導通部や全体の形状の自由度が高まった。また通常のパウチに比べ膨らんだ形状を取れるため、ポケットの押しつぶしやすさが向上している。

包装の完成後は、使用時や輸送時に問題が発生しないか検証を徹底した。特に輸送実験を何度も実施し、運送時の衝撃でポケットが導通しないか念入りに確認した。

開発担当者の包装技術開発部開発二グループ主任の神野達哉氏は同包装に関し、従来のパウチ包装から「大きく進化した」と強調する。ヘアケア用品や美容液など多方面での新包装の活躍を期待している。「2液混合包装自体の研究のスタートからは約8年かかっている。長年の悲願がかなった」とし、数々の賞の受賞と、商品が店頭に並び実際に手に取られる喜びを語った。

（おわり）

IJPビジネスで協業

キヤノン／ハイデルベルグ社

枚葉印刷機でグローバル連携

キヤノンのグループ会社であるキヤノンプロダクションプリンティング（オランダ、以下CPP社）とドイツ・ハイデルベルグ社は5月17日、枚葉インクジェット印刷機（IJP）の販売に関するグローバルの業務提携について合意した。オフセットとデジタルのハイブリッド生産を確立することで、変化するプリントバイヤーのニーズに応え、多様化するホロット生産の分野で印刷会社を支援していく。

ハイデルベルグ社は、キヤノンが新たに発表したB2判IJPと、世界で650台以上稼働しているB3判IJPを同社のポートフォリオに追加する。両機は「ジェットファイアシリーズ」としてハイデルベルグ社のワークフロー「プリネクト」に統合され、サービスとインクはハイデルベルグ社を通じて利用できるようになる。

今回の協業について、CPP社の吉田明CEOは「ハイデルベルグ社とのコラボレーションは、オフセットとデジタルのハイブリッド生産への移行を加速させ、世界中のより多くのオフセット印刷ビジネスに革新的なイノベーションを可能にすると確信している」と述べている。

ハイデルベルグ社のセールス&マーケティング部門グローバル責任者のダヴィッド・シュメディング氏は「われわれの目標は、オフセット枚葉印刷機とデジタル印刷機を同時に運用する印刷会社に魅力的で統合されたサービスと製品ポートフォリオを提供すること。当社のワークフローに統合されたIJPを提供することで、より柔軟でコストパフォーマンスが高い生産の自動化を実現できる」と期待を示す。

なお、キヤノンの新しいB2IJPは、2026年初頭の出荷を予定している。

設計・制作
熱成形用金型
真空成形
圧空成形
―理想の製を創ります―
VMOLD バキュームモールド工業株式会社
http://www.vmold.co.jp
本社 〒131-0031 東京都墨田区墨田5-23-11
TEL.03-3614-1556(代) FAX.03-3614-1559
大阪事業所 〒577-0006 大阪府東大阪市楠根2-3-38
TEL.06-4309-3766 FAX.06-4309-3767

生物由来資源を75%使用した
環境配慮型クラフトテープ
キクラフト#100
テープの基材には、ポリエチレンラミネートのないクラフト紙を使用し、天然ゴム系粘着剤を塗布しています。
75
バイオマス
使用部位:テープ本体
No.210190
ホテープ株式会社
地球にやさしい包装、はじめませんか？
飯塚産業株式会社
本社 大阪市東成区神路4丁目11番20号
TEL(06)6976-0401 FAX(06)6971-8239
東京営業所 東京都世田谷区上野毛1-27-6エクセル上野毛2F
TEL(03)5706-3591 FAX(03)5706-3590
URL http://www.iizuka-sangyo.co.jp/

毎日更新の包装業界情報がご覧いただけます
https://www.nippo.co.jp/
日報 検索
X（Twitter）もご覧ください
包装編集部 検索

INDEX

総会情報
全日シール、JPAなど …… 12
外装関連 パートナーシップを締結
UR／オークラ輸送機 …… 2
軟包装関連 「ソフトパッケージの現状と将来」
全国グラビア協同組合連合会 …… 2
印刷加工 接着・粘着技術で課題解決
接着・粘着技術展2024 …… 3
特集 多様な産業基盤強みに
関西『元気企業』特集 …… 4～8
特集 付加価値を高め市場開拓
真空成形・包装加工最前線 …… 9～11

カミコン KAMIKON 紙製折り畳み式中仕切り
パッケージデザインの
常識を、超えろ。
パッと畳んで収納キカンタン
わずか1/10のサイズ！
Instagram
すべてオーダーメイドで、用途やサイズはもちろん、価格・緩衝材・ロット数まで自由にお選びいただけます。サンプル依頼も承ります。
オカベカミコン OKABE KAMIKON CO.,LTD.
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
TEL.0561-86-0070 オカベカミコン 検索
〒489-0976 瀬戸市井戸金町338 https://okabekamikon.co.jp

製袋品の枚葉検査用コンベア搬送装置
インパルスシール式小分け、袋詰め包装機械
富士インパルス㈱製品の故障、修理だけでも承っておりますのでお問合せ下さい。
SBUユニットケース
富士インパルス㈱製インパルスシール装置SBUユニットケース単独でも製袋機械に搭載することが出来ます。
印刷機械・製袋機械・スリット巻取機械・製造
キョウエイ株式会社
〒584-0022 大阪府富田林市中野町東2丁目1番7号
TEL 0721-24-2630 FAX 0721-25-2621
URL:https://www.kyouei-k.co.jp
E-mail:osaka-t@kyouei-k.co.jp